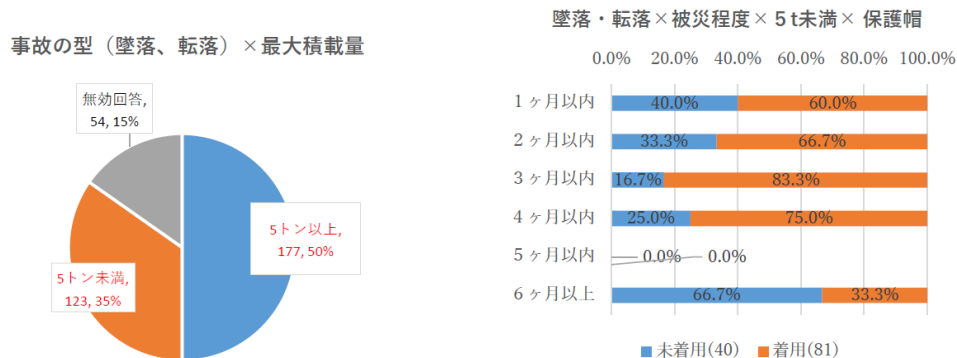


墜落・転落防止対策等に関する検討資料

○ 墜落・転落防止対策

1 労働災害発生状況等について

(1) 休業4日以上死傷災害（墜落・転落災害）（第1回資料4-3 P39, P40）



- ・ 最大積載荷重5トン未満で35%発生している。
- ・ このうち被災程度が6か月以上であった災害のうち保護帽が未着用であったものが約7割を占めている。

(2) 死亡災害（墜落・転落災害）（別添参照）

- ・ 現在、令和3年に発生した死亡災害のうち事故の型「墜落・転落」、起因物「トラック」であった20件の災害を分析した。
- ・ このうち荷役作業中に発生した災害は10件あり、最大積載量5トン未満の災害は4件であった。
- ・ ほとんどの災害は保護帽を適切に着用していれば防ぐことが可能であった。

2 最大積載量別の貨物自動車保有台数（第5回資料4-2 P1）

	営業用	
大型自動車(6.5t以上)	469,932	47.00%
中型自動車(4.5t以上6.5t未満)	236,298	23.60%
準中型自動車(2t以上4.5t未満)	243,438	24.30%
普通自動車(2t未満)	50,138	5.00%
合計	999,806	100

3 陸災防実施アンケートの結果

(1) 陸運事業者用

- ・ 最大積載量2.0トン以上のトラックを所有する事業者の8割以上がドライバーに保護帽を着用させていると回答
- ・ 保護帽を着用させていない場合の理由としては「法令の義務がないため」が約5割、「必要性を感じないため」が約3割と回答（複数回答）
- ・ その他に「作業の邪魔になる」「着用しての業務は難しい」等といった回答もあった。

(2) ドライバー用

- ・ 最大積載量2.0トン以上のトラックを運転する者の約4割以上が保護帽を着用している

と回答

- ・ 保護帽を着用しない理由としては「社内規程がないため」が約6割、「必要性を感じないため」が約4割と回答（複数回答）
- ・ その他に「ヘルメットが視界を狭くする」「ヘルメットを被って走れない」「長時間運行で疲れないようにするため」といった回答もあった。

4 対策の方向性について

昇降設備の設置と保護帽（ヘルメット）の着用について		
最大積載量	昇降設備の設置	保護帽の着用
5トン以上	○（措置済）	○（措置済）
2トン以上5トン未満	○（新規）	○（適用除外について検討が必要）※
2トン未満	×（ガイドラインで促進）	×（ガイドラインで促進）

※ 適用除外の考え方の例

以下の条件をすべて満たすもの

- ・ 昇降設備が用意されている場所以外の場所において荷役作業が行われない構造であること
- ・ 荷台等の高さがおおむね1メートル以下であって、適切な昇降設備が設置されているなど、適切な墜落・転落防止措置が講じられていること。

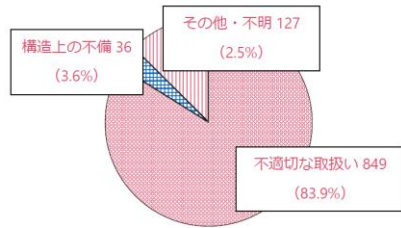
○ RBP 及び TGL の安全衛生教育

1 労働災害発生状況等について

(1) 令和2年の労働災害発生状況（第1回資料4-2 P26）

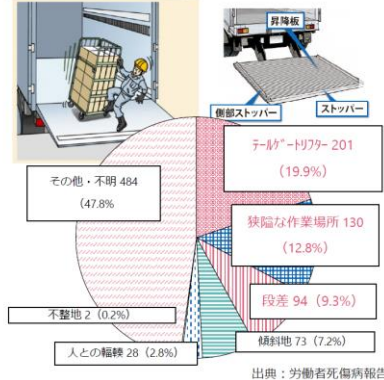
令和2年 労働災害発生状況

- RBPの「不適切な取扱い」※が約8割と最多
 - このうち
 - 被災者の約2割が、経験年数10年以上
 - 傷病性質の約5割が、休業1ヶ月以上の「骨折」
- ※荷役運搬用のロールボックスパレット（カゴ車）の取扱中の災害が多発し、このうち約8割が不適切な取扱が原因となっている。



令和2年 災害発生時の作業環境

- テールゲートリフター利用時が約2割と最多



- ・ 陸上貨物運送事業において RBP 取扱い中に発生した休業4日以上¹の死傷災害（約1,000件）を分析したところ以下のとおり。
 - ① 約8割が「不適切な取扱い」が原因であった。
 - ② 約2割が TGL 利用時に発生している。

(2) アンケート結果

- ・ 陸運事業場用138事業場
 - 【安全衛生教育】(3) TGL 教育 45%
 - (4) RBP 教育 33%

(3) 労働安全衛生総合研究所研究技術資料2015

- ・ 「ロールボックスパレット起因災害防止の手引き」
 - 経験1年以下の被災が、43.2%、うち1か月以下だけで、8.2%

別添（資料6） 令和3年に荷役作業中にトラックから墜落・転落して発生した死亡災害の概要

トラックの種類	最大積載量 (トン)	墜落時の作業	傷病部位	傷病名	保護帽の着用	保護帽の適正着用 により防止可能
平ボディトラック	2.0	荷台上で荷の均し作業	頭部	頭蓋骨骨折	有り（被災時脱落）	○
ドライバントラック (TGL付)	2.2	RBP及びTGLを用いた荷下ろし作業	頭部	急性硬膜下血腫	無し	○
平ボディトラック	3.3	荷台上で荷の荷締め作業	頭部	急性硬膜下血腫、頭蓋骨多発骨折等	有り（被災時脱落）	○
平ボディトラック	3.7	荷の積み込み前の準備作業	頭部	重症頭部外傷	無し	○
トラッククレーン	7.3	荷台に積み込んだ荷の固縛作業	肝臓	外傷性肝破裂	有り	
平ボディトラック	7.4	コンクリートブロックの積み替え作業	—	窒息（溺死）	無し	
自動車運搬用キャリアカー	7.8	キャリアカーの2階からの車両の積み卸し作業	頭部	外傷性くも膜下出血、脳挫傷、左前頭部粉碎骨折	無し	○
平ボディトラック	10.6	荷台上で荷のシート外し作業（推定）	頸部	高位頸髄損傷	無し	△
平ボディトラック	11.5	荷台上で木材チップの積み込み作業	頭部、頸部	頸髄損傷、頸椎骨折、頭部挫裂創、頭蓋骨骨折	無し	○
平ボディトラック	26.7	荷台上で荷のシートかけ作業（推定）	頭部、頸部	脳損傷、頸椎損傷	無し	○